



NO. モユク・カムイ 94

●モユク・カムイとはアイヌ語で「エゾタヌキ」のことです。 July 2017

ASAHIYAMA ZOO NEWS

あさひやまどうぶつえんニュース

キタキツネ

Vulpes vulpes schrencki



もくじ

ほくは動物大使 その55
北海道のイメージキャラクター
キタキツネ.....1.2

特集★旭山動物園50周年!!.....3.4

飼育研究レポート
ゴマフアザラシ 2017繁殖報告.....5

動物園裏側紹介
とどりの村 屋内編.....6

主なできごと
ニホンザルの引っ越しドキュメント
編集後記・飼育動物数.....7

キタキツネ

Vulpes vulpes schrencki
食肉(ネコ)目 イヌ科

北半球に広く分布するアカギツネの亜種で、日本では北海道に生息する。本州・四国・九州に生息するホンDIGITSネよりも全体的にやや大きい。

寿命は、野性下で約6~7年。

群れでは行動せずに単独もしくは母子で昼夜問わず行動する。

キタキツネは北海道では身近な動物であり、平地から高山帯に生息し、市街地でも見かけることがある、また昔から人間との関わり合いが強く、アイヌの民話や説話にもよく登場する。

最近、人間が与える食べ物に含まれる甘味料や添加物で消化不良を起こし体力や免疫力が低下し、ダニの寄生による疥癬かいせんという皮膚病にかかり、個体数が減少してきているとの報告もある。

キタキツネの分布

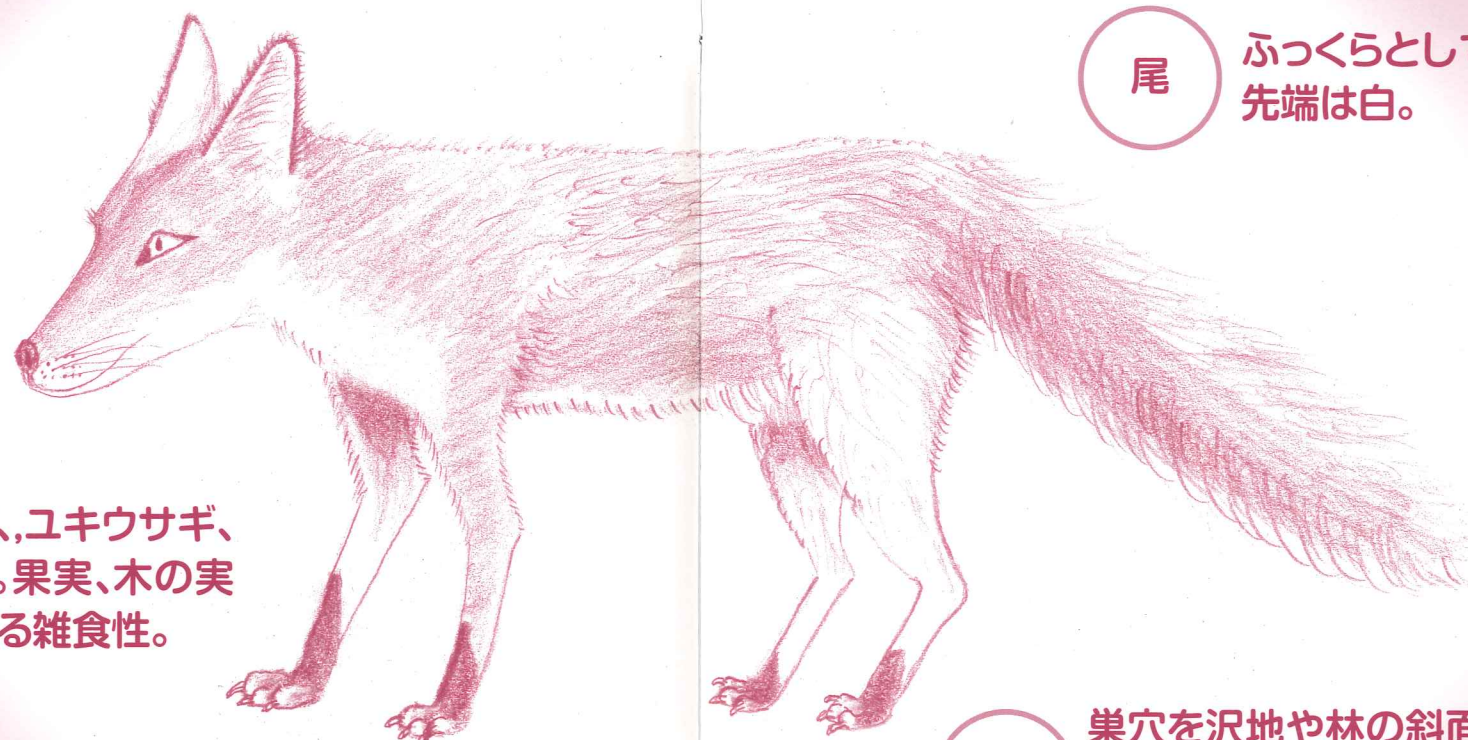


濃い部分=生息範囲

ぼくは動物大使 その55

毛色 赤褐色で、あごの下から腹部は白色。耳の裏と四肢の足先前面が黒い。

食べ物 主にネズミ、ユキウサギ、鳥類、昆虫。果実、木の实なども食べる雑食性。



体 頭胴長 … 60~80cm
体重 …… 2.5kg~7kg

尾 ふっくらとして長く、先端は白。

仔 巣穴を沢地や林の斜面に掘り、春に4~7頭の子供を産む。

北海道のイメージキャラクター ~キタキツネ~

エキノコックス

1994年に旭山動物園で、ゴリラ・ワオキツネザルがエキノコックス症に感染・死亡しました。

この病気はキタキツネ・イヌなどの糞を介したエキノコックス虫卵を人間が飲み込み、幼虫が体内に寄生することにより発症する、人と動物の共通感染症です。

感染してから数年~十数年は無症状ですが、幼虫が主に肝臓に寄生し、増殖してスポンジ状の大きな病巣を形成するようになります。

早期発見であれば治療可能ですが、最悪の場合死亡することもあります。

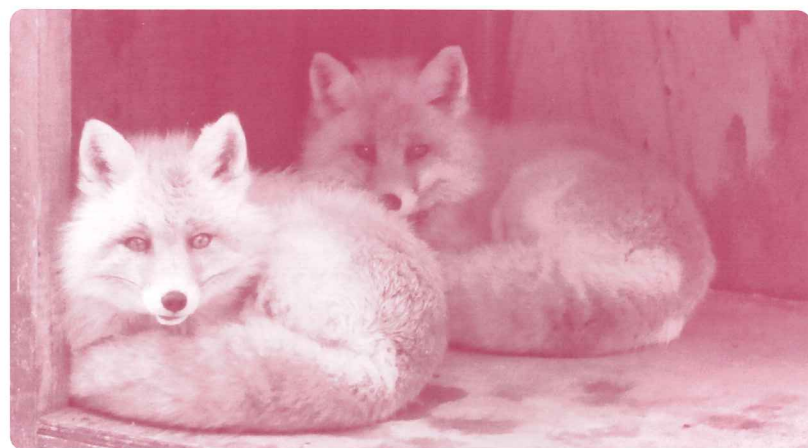
キタキツネが最も重要な感染源で、約60%のキタキツネが感染していると報告されています。

むやみに怖がるのではなく、キタキツネを見かけても餌を与えたり触ったりしないことが大切です。

また、土や草木などに触れた時の手洗いの徹底、沢の水を生で飲まないなど、虫卵が口に入らないように気をつけましょう。

そして、忘れてはいけないのがエキノコックスは、人間が北海道に持ち込んだ外来寄生虫だということです。

旭山のキタキツネ



える(オス) ある(オス)
三国峠で、2009年に幼獣で保護された兄弟

人間との関わり合い

本来、人間と野生動物の生息域は離れているものであり、人間から食べ物を与えられない状態でバランスがとれています。

キタキツネの餌付けが問題になっていますが、これはエキノコックス症などの人と動物の共通感染症の発生や、旅行で連れてこられたペットとキタキツネ間で感染症を伝播させる可能性があるからです。

その上、キタキツネの行動にも変化を与えており、人間を恐れなくなったり、都市部の住宅街に住み着く個体もいて、残飯をあさるなどの苦情や交通事故などのトラブルも起きています。このように、人間の干渉によってキタキツネの生態に悪影響が出ています。

『かわいい』だけではなく相手を尊重し干渉しないことが野生動物との共存に繋がっていくのではないのでしょうか。



特集★祝 旭山動物園 50周年!!

1967年7月1日、市民のための動物園としてオープンした旭山動物園。エキノコックス問題、閉園の危機、14枚のスケッチ、年間300万人の入園者など、まるでドラマのような紆余曲折を経て、今年の7月1日に無事に50周年を迎えることができました。

そんな記念すべき今年は「50周年記念事業」として4月29日の夏期開園より、さまざまな取り組みが実施されています。開園記念日を過ぎた今後たくさんのイベントや取り組みが予定されていますので、ここで少しご紹介したいと思います。



50周年記念ロゴ



今年の1月に登場した記念ロゴ。すでに見たことのある人も多いかも。

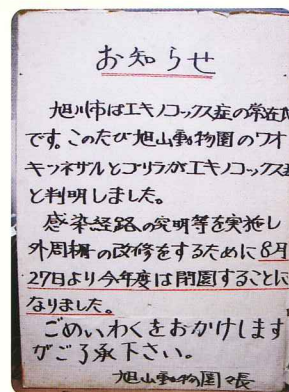
記念すべきこのロゴに抜擢された動物は「オオカミ」。かつて人の手により日本で初めて絶滅させてしまった動物がエゾオオカミだったことから、野生動物との共存や環境保全について考えてもらいたいという思いが込められています。



開園セレモニーの様子



日本で初めて繁殖したホッキョクグマの「コロ」



エキノコックスにより、一時閉園したときの看板



旧総合動物舎で過ごしていたシロサイの「ノシオ」とマルミミゾウの「ナナ」

記念イベント&企画展

開園日より学習ホールにて「歴代ポスター展」が開催されています。2ヶ月ごとに展示するポスターの年代が変わっていくので「これ見たことある!」というポスターがきっとあるはず。動物園に来るたびに見に行ってみてくださいね。また、ポスターの横には皆さんからのメッセージや動物園で撮影した懐かしい写真を貼るスペースがあるので、写真のコピーを自宅から持ってきたり、メッセージを書いて貼ってください! 郵送、FAXでも受け付けています!



そして、50周年を記念した、講演やフォーラム、植樹や学習会なども予定していますよ。

記念オフィシャルグッズ

50周年を記念してオフィシャルグッズも数量限定で販売しています。職員が着用しているモンベルのレインスーツに海洋堂のホッキョクグマのソフトビニール人形、さらに、キリンの糞で作ったポストカードも販売を予定しています。



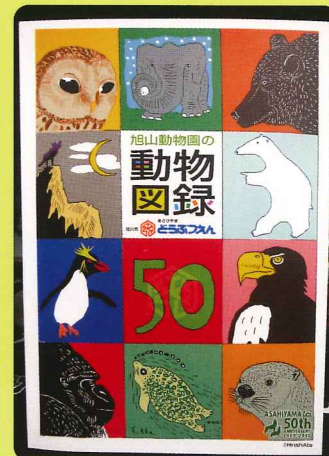
記念誌&動物図録

旭山動物園のこれまでの足跡が描かれており、歴史を感じることもできる「旭山動物園記念誌」です。年代ごとに分かれその時その時に何があったのかが丸わかりです。こちらも園内売店で購入可能です。

【1,000円+税】



40周年のときに作られた「動物図録」。職員の熱い思いを込め、改訂版を制作し、「旭山らしさ」が満載の一冊に仕上がりました。この図録を見ながら園内を回ってもよし、家に帰って動物園を思い出しながら見るのもよし。園内売店で購入できます。【1,000円+税】



他にもいろいろ



JALやJR、イオンやそごう、サッポロビールなど多くの企業にも協力していただき、さまざまなキャンペーンも実施しています。

このモユクカムイの特集だけでは50周年記念事業のすべてを伝えることができないので、気になる方は、旭山動物園の公式HPやSNSでチェックしてみてください。最新の情報や今後の予定については決まり次第、随時お知らせしていきます!!

旭山動物園の公式HPやSNSはこちらからどうぞ!



Facebook



Twitter



Instagram



旭山動物園HP





飼育研究レポート

～ゴマフアザラシ 2017年繁殖報告～



2017年3月23日と4月2日にゴマフアザラシの出産がありました。ゴマフアザラシの繁殖は旭山動物園として3年ぶり、2頭同年出産は初めてでした。今回は、出産までの経過と出産後の様子をレポートします。

2016年は、2頭(ぼちゃ丸とまめ)が妊娠しましたが、ぼちゃ丸は流産、まめは死産と繁殖成功には至りませんでした。私がゴマフアザラシの担当になって初めての妊娠だったので無事、出産・生育をさせてあげられなかったことが非常に悔しく「来年こそは…」と、2017年の出産にむけて飼育環境、給餌内容など考えるすべてを見直し、出産期を迎えました。

2017年3月23日、そろそろ生まれるかなと少し早く動物園に出勤し、あざらし館に観に行くとそこには白い毛をしたアザラシの子どもがいました!近くには出産をした母親のポチャ丸がいます。一緒にあざらし館を担当している職員に連絡すると「母親が近くにいるなら授乳も大丈夫かも」とのこと。その日の8時ごろには、授乳も確認でき一安心。子どもは母親に育てられ、日に日に大きくなっていきました。飼育担当者としては、安心して見守ることができました。

「今年の出産は1頭かな…」と思っていたのですが、よくアザラシを観察していると「なんだかまめのおなが大きくなってきたな…」と気になりはじめました。

2017年4月2日、この日も少し早く動物園に出勤し、あざらし館を観に行くと、先日生まれた子どもより小さい白い毛の子どもがいました!しかし、その子どもの近くに母親のまめがいません。これでは育児ができないと、子どもを母親に近づけてみました。すると今まで聞いたこともないような声を出して子どもを拒絶します。どうやら最初の母子の接触がうまくいかなかったようです。それでもなんとかまめに育児をしてもらいたく、あの手この手を試しましたが、結局まめに子育てをさせてあげることができませんでした。

母親が子育てをできなかったのが飼育担当者が子育てすることにしました。体重は8.5kgと生まれたての



はじめはこんなに大きさがちがいました。

子どもの体重としてはすこし小さかったですが、旭山動物園では、過去に人工哺育を何度も行っていたので、過去の例を参考に「海生哺乳類用ミルク」を与えて育てました。生まれた時から小さかったからか、ミルクから魚への切り替えまでに時間を要しましたが、4月26日から完全に魚に切り替え、無事に人工哺育を終えることができました。

今では2頭ともすっかり大きくなり、元気に泳ぎ回っています。飼育担当者としては、このあたりでようやくハラハラ、どきどきの日々が終了です。

飼育担当者として初めての繁殖に成功した2017年は、母親が育てる「自然繁殖」、飼育担当者が育てる「人工哺育」の両方を経験できるという忙しくも充実した日々でした。5頭だったアザラシも7頭となり、子どもから大人までのアザラシを観察していただける賑やかな施設になりました。最近、ゴマフアザラシの野生個体の保護が少なくなり動物園・水族館の中での繁殖が非常に重要になってきています。これからも動物園でアザラシを観てもらい、自然界で生きているアザラシのことに興味を持ってもらえるよう動物園としてしっかりと繁殖に取り組んでいきたいと思ひます。

最後に、ゴマフアザラシを担当して初めての繁殖に成功した感想として…やったぜー!!!!!!
(ゴマフアザラシ・ニホンザル担当・鈴木悠太)

動物園裏側紹介

とどりの村 屋内編

今年度、とどりの村は改修工事中のために水鳥達は建物の中で過ごしています。

どのような場所で過ごしているのか見てみましょう!

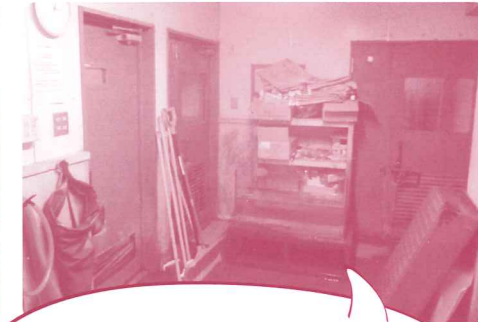
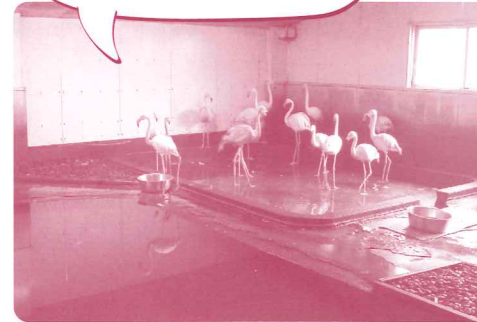


工事中



とどりの村 建物外観

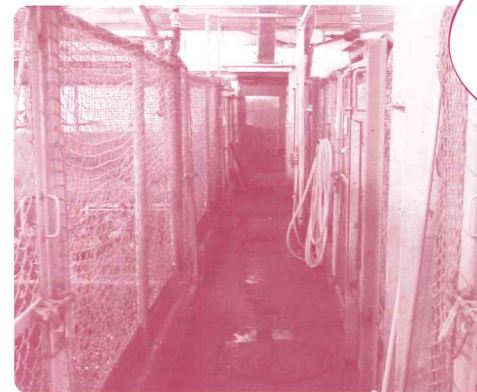
同じ建物内には
フラミンゴもいるよ



裏側へ入ると…
左の入り口がフラミンゴ、
右の入り口がとどりの水鳥達の扉



広めのプールがある場所ではハクチョウ類やガン類がいます。
この仲間は、飛ぶためにある程度の助走距離が必要になります。そのため、それほど広くないこの部屋には天井に網は必要ありません。



カモたちはアパートの様に仕切られた小部屋にいます。それぞれの部屋にカモ達は種類ごとに分かれていきます。

カモたちの部屋は、それぞれに小さいけどプールもあります。ちょうどプール掃除の日なのでカモたちは気持ちよさそうに水浴びをしています。
写真はマガモの部屋です。



飼育スタッフに新人さんが入りました

櫻庭 沙耶葉(さくらば さやは)(♀)

4月に異動してきて早2か月。
仕事のペースには慣れましたが、まだ仕事をこなすことで精一杯です。
担当動物はクジャク舎。今後、動物の魅力を沢山のの人に伝えられるよう、又、自分自身楽しんで仕事をしていきたいと思ひます。



主なできごと

- 3月16日 飼育勉強会
- 23日 ゴマフアザラシ「ぼちゃ丸」出産
愛称:まくろ(オス)
- 4月 3日 ゴマフアザラシ「マメ」出産
愛称:ましろ(メス・人工保育)
- 6日 飼育勉強会
- 8日 旭川市とNPO法人富良野自然塾による環境教育等の連携と協力に関する覚書の締結について共同記者会見

富良野自然塾と旭川市の環境教育等の
連携に関する共同記者発表



- 4月 9日 冬期開園終了
- 22日 さる山へニホンザル全頭移動
- 29日 夏期開園開始
さる山リニューアルオープン
動物図録(改訂版)販売開始
歴代ポスター展・市民思い出メッセ
ーシ展開始(学習ホール)
- 5月 6日 自然観察会
- 8日 レッサーパンダ・ノノ死亡(心不全)



- 16日 クマタカ孵化(人工)
- 30日 飼育勉強会

ニホンザルの引っ越しドキュメント

4月10日から28日までの休園期間中は夏期開園へ向けて動物園スタッフは様々な準備に追われます。動物舎のレイアウトや園内看板の更新などが主な内容ですが、今年はメインイベントとして改修を行ったさる山への引っ越しがありました。改修前の秋にも行った(改修中は園内他施設で飼育するため)のですが、その大変さを思い出し、担当する飼育スタッフは朝から気合い(?)が入っていました。

当日はあいにくのみぞれ交じりの悪天候でしたが、打ち合わせどおり腕自慢の飼育スタッフ数名が網をもってニホンザルを捕まえ、てきぱきと箱や袋に入れていきます。普段あまり動物捕獲の腕を披露しないベテランスタッフがアグレッシブな動きを見せていたのが印象的でした。捕獲は約1時間半で終了し、新居へ移動も無事完了しました。雨とさる汁(?)でべちゃべちゃになりながらも全員達成感と安堵感でつまれた一日となりました。



改修後のさる山



秋の移動時の様子(春は写真を撮る余裕なし)

編集後記

2017年3月にシマフクロウが初めて産卵しました。その後、メスが順調に抱卵をしている様子がみられ、旭山で初めての繁殖&50周年の年度初めに孵化予定と期待が膨らみました。しかし、孵化予定日を過ぎても変化はなく、最終的に確認したところ無精卵という結果でした。

多くの鳥たちは繁殖のチャンスは年1回、ほ乳類でも次の繁殖まで時間がかかることが多いです。先輩飼育係たちもこんな期待・失望・試行錯誤・歓喜の1年のサイクルを49回繰り返して今があるのだなと感じます。これからも動物たちの「いのち」を伝えていきたいと思います。

(中村)

モユク・カムイ No.94 平成29年7月1日

- 発行所/旭川市旭山動物園
〒078-8205 旭川市東旭川町倉沼 ☎0166-36-1104
- 発行/坂東 元 ●表紙絵:中田 真一
- 編集/丸 一喜・高橋 伸広・大内 章広・鈴木 悠太・中村 亮平・佐賀 真一
- 印刷/株須田製版:〒070-8045 旭川市忠和5条8丁目3-1 ☎0166-62-2266

飼育動物数

平成29年6月1日現在

- 哺乳類 44種・278点
- 鳥類 57種・311点
- は虫類 5種・17点
- 合計 106種・606点